

## 日本薬系学会連合 第 2 回設立記念フォーラム「ともに語ろう 薬学の未来」

### ～薬学研究者養成の課題と展望：さらなる活躍に向けて～ 開催報告

- 主催： 一般社団法人日本薬系学会連合
- 後援： 日本学術会議
- 会期： 2025 年（令和 7 年）3 月 20 日（木、祝）13:00 – 17:15
- 会場： 日本薬学会長井記念館長井記念ホール及びオンライン（ハイブリッド）
- 参加者： 会場での参加者 40 名、オンラインでの参加者 136 名、計 176 名

#### 【概要】

日本薬系学会連合は「薬」をキーワードにした学術団体を束ねる本邦初の連合体として 2023 年 7 月に設立された。これを記念して「ともに語ろう 薬学の未来」というメインテーマのもと、シリーズで 3 回の設立記念フォーラムを開催することを企画し、2024 年 5 月に「～薬系研究の展望～」をサブテーマに第 1 回設立記念フォーラムを開催した。今回、第 2 回設立記念フォーラム「ともに語ろう 薬学の未来」～薬学研究者養成の課題と展望：さらなる活躍に向けて～を開催し、博士課程への進学者数の減少問題に焦点を当てた。第 1 部では、2024 年 3 月に文部科学省から発出された「博士人材活躍プラン」の中で経済団体・業界団体等の長宛へのお願いとして依頼された 7 項目について各ステークホルダーにアンケート調査した結果が報告された。第 2 部では、第 1 部のアンケート調査の結果を踏まえたパネル討論が行われた。

#### 【開会の辞・趣旨説明】 一般社団法人日本薬系学会連合 会長 高倉 喜信



開会の挨拶の後、引き続き、高倉会長より本フォーラムの趣旨説明が行われた。薬学 6 年制導入後、博士後期課程、博士課程への進学者数は減少し続けてきたが直近はわずかながら回復の兆しがあること、数年前から国が開始した各種給付型奨学金制度がプラスの効果をもたらしている可能性があることを言及した。また、連合では、文部科学省から発出された「博士人材活躍プラン～博士をとろう～」の中での以下の 7 項目のお願いおよび関

連事項について、大学、医療機関、製薬企業にアンケート調査を実施したとの説明があった。

### ＜博士人材の活躍促進に向けた企業の協力等に関するお願いについて＞

1. 博士人材の採用拡大・処遇改善
2. 博士人材の採用プロセスにおける海外留学経験の評価促進
3. 博士後期課程学生を対象としたインターンシップの推進
4. 博士人材の雇用に伴う法人税等の税額控除の活用促進
5. 奨学金の企業等による代理返還制度の活用促進
6. 従業員の博士号取得支援
7. 企業で活躍する博士人材のロールモデルの選定と情報提供

### 【第1部 文部科学省「博士人材活躍プラン」に関するアンケート調査結果について】

#### 1. 「大学の調査結果」津田 誠（九州大学薬学研究院）



80 機関中 67 機関から回答があり（回収率 83.8%）、回答者の 70%以上が学長、学部長・研究科長であることから今回のテーマに対する関心が高いことが分かった。また、今回の「文部科学省からのお願い」についての認知度は4割程度であるが、概ね共感度は高いと思われた。さらに、アンケート調査の結果、大学の博士人材の受け入れ先である製薬企業・医療機関に対する要望は以下の3点に要約されることが分かった。

- ① 博士取得者を積極的に採用してほしい
- ② 博士取得者のキャリア形成や処遇面（給与面も）などでのメリットも明確に示してほしい（ロールモデルを示すことは効果的）
- ③ 経済的な面で、代理返還制度への期待は高い

## 2. 「医療機関の調査結果」菅原 満（北海道大学薬学研究院・北海道大学病院）

大学病院（附属病院を含む）及び特定機能病院 159 機関中 98 機関から回答があり（回収率 61.6%）、回答者の 84%が薬剤部長、14%が副薬剤部長と責任のある立場からの回答が大部分であった。アンケート調査の結果、医療現場における博士人材への期待は大きいことが分かった。その理由として、薬剤師業務の複雑化や高度化に伴うレベルの高い知識や技能が要求されていること、医師等の多職種あるいは大学との共同研究により、リバーストランスレーショナルリサーチを含む研究が必要とされていることが挙げられた。また、博士人材の採用、および就職後の博士取得を進めるためには、施設側の環境整備（能力を発揮できる、見合った処遇など）が必要であることも分かった。現状では、一般的に薬剤師としての能力が高いので、既にそれが評価されて昇給や昇任に反映されているが、薬剤部門のみの努力では難しく、病院としての取り組みが必要なこともある、とまとめられた。



## 3. 「製薬企業大学調査結果」林 良雄（東京薬科大学生命科学部）



アンケート回収率は 25.7%（70 社中 18 社が回答）と低く、主に本活動に意識の高い企業が回答したと思われた。回答者の 67%が人事・採用担当者であり、役員や研究部門から回答は約 33%であった。アンケート調査の結果、今回の「文部科学省からのお願い」についての認知が大学に比べて進んでおらず、必ずしも共感していないことが分かった。これは、既に独自の施策により外国人を含め必要な人材を採用しているという背景が影響していることが推察された。

博士人材育成は、専門性のみならずリーダーシップや目的意識涵養が重要、カリキュラムの見直しと教育の方向性の明確化が急務、薬剤師教育への傾倒を是正し、研究力向上を図るべき、等の意見があった。

## 【第2部 パネル討論】

パネル討論では、以下の4つのテーマについて意見交換が行われた。議論のポイントは以下のとおりである（★は今回浮き彫りになった課題）。



### 1. 博士人材の現状と経済的支援

・ 博士人材の減少：博士人材が減少している現状について、企業・大学・医療機関の間で共通認識があり、博士人材の育成と活用が日本の産業に不可欠である。

★**経済的支援制度の重要性**：経済的支援制度が博士進学の際の障害となっており、その充実が求められている。一方で、次世代研究者挑戦的研究プログラム（Support for Pioneering Research Initiated by the Next Generation: SPRING）や大学フェローシップ創設など、新たな支援制度の広がりも見られる。



### 2. 企業における博士人材の役割と官民連携

★**企業の取り組み**：製薬企業のアンケートの回答率が低く、多くの企業に関心を持っていない可能性がある。一方で、アンケートに回答した企業の約60%は博士人材を積極的・意識的に採用し、約70%は社員の博士号取得支援制度を持って

おり、積極的な博士人材への取り組みが見られる。

・ 企業が求めるスキル：企業が求める博士人材には、課題発見能力や論理的思考力に加え、コミュニケーション能力やリーダーシップなどの汎用性スキルが求められている。

★**官民連携の必要性**：博士人材の活躍促進には官民が連携した取り組みが不可欠であるが、一方で過度な役割が企業の負担増加につながることを懸念する声もある。

### 3. 医療現場における博士人材への期待

★**医療機関のジレンマ**：医療機関では博士人材の重要性が認識されつつも、博士を活用できる体制が十分に整っていないという状況がある。病院として環境整備（能力を発揮できる場や、適正な処遇など）の取り組みが必要ではないか。また、医療系の実務家教員を養成できる博士課程のあり方も課題である。

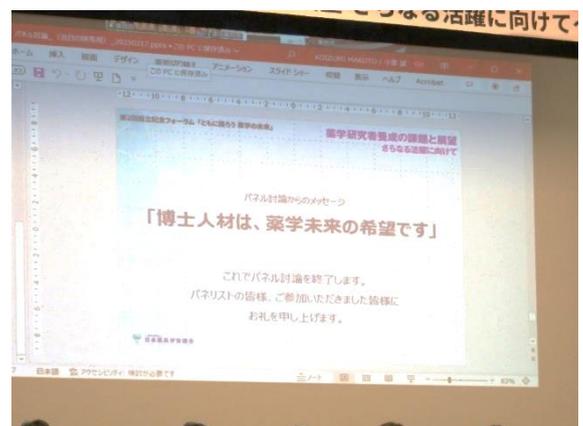
### 4. 博士人材のロールモデルの重要性と教育の方向性

★**ロールモデルの重要性やキャリアパスの明確化**：社会で活躍する博士人材のロールモデルの存在や、キャリアパスの明確化・可視化が重要である。また、教育現場でも「博士を取得することで薬剤師としての活躍の場が広がる」というメッセージを広めることが必要ではないか。

★**博士取得メリットの学生への訴求**：学生が博士取得を目指したくなるように、教育現場では本来の研究の楽しさや面白さを伝えられているかどうか。

・ 教育現場の方向性：大学院における博士人材育成の方向性に関して、医療系と企業向けの育成が明確に定められていないことが、現場での戸惑いを生んでいるのではないか。

最後に、「**博士人材は、薬学未来の希望です**」というメッセージでパネル討論は締めくくられた。



**【閉会の辞】 一般社団法人 日本薬系学会連合 副会長 望月眞弓**



望月副会長は、講演内容及びパネル討論を要約し、感想を述べた。課題の中には各ステークホルダーが現状でも実施可能なものもあり、それらを着実に実施することがはじめの一步であることが強調された。最後に、「日本薬系学会連合では、第3回設立記念フォーラム「ともに語ろう薬学の未来」～臨床薬学のエビデンス構築・人材育成の課題と展望～」の紹介があり、奮って参加を呼びかけ、フォーラムは閉会となった。



**日本薬系学会連合第2回設立記念フォーラムワーキンググループメンバー（50音順）**

- 小泉 誠 第一三共株式会社（日本核酸医薬学会）  
菅原 満 北海道大学薬学研究院・北海道大学病院（日本 TDM 学会）  
\* 高倉喜信 日本薬系学会連合会長（日本薬学会）  
武田真莉子 神戸学院大学薬学部（日本 DDS 学会）  
津田 誠 九州大学薬学研究院（日本薬理学会）  
林 良雄 東京薬科大学生命科学部（日本薬学会）  
松沢 厚 東北大学薬学研究科（日本薬学会）  
望月眞弓 日本薬系学会連合副会長（日本薬学会）

\* 委員長